

日本学術振興会
炭素材料第117委員会
第303回委員会議事録（案）

1. 日 時 平成24年9月14日（金） 9:30~16:20
2. 場 所 東京工業大学 情報理工学研究科・大会議室（大岡山キャンパス西8号館（East）1001号室）
3. 出席者36名（順不同・敬称略）

委員長： 寺井隆幸（東大）

主 査： 川口雅之（大阪電通大）、児玉昌也（産総研）

幹 事： 稲垣道夫（北大）、安田榮一（東工大）、京谷隆（東北大）、
尾崎純一（群馬大）、豊田昌宏（大分大）、小林知洋（理研）

委 員： 飯島孝（新日鐵）、岩下哲雄（産総研）、
蛭谷玄太（コバレントマテリアル／代理：吉光大志）、
小田廣和（関西大）、鏑木裕（東京都市大）、川野陽一（新日鐵化学）、
近藤純子（東洋炭素／代理：森下隆弘）、塩山洋（産総研）、
柴田大受（原子力機構）、園部直弘（クレハ／代理：小松真友）、
高波浩（タンケンシーラセーコウ／代理：鶴見裕貴）、
中壽賀章（積水化学工業）、羽鳥浩章（産総研）、平原聡（三菱化学）、
福田敏昭（東海カーボン／代理：大宮裕美）、藤本宏（大阪ガス）、
向井紳（北大）

委 員 外： 木村脩七（東工大）、清原健司（産総研）、斎藤幸恵（東大）、
白石壮志（群馬大）、鈴木弘茂（東工大）、西澤節（神戸製鋼）、
菱山幸宥（東京都市大）

同伴者他： 吉澤徳子（産総研）、曾根田靖（産総研）
川村良一（タンケンシーラセーコウ）

4. 本委員会議事経過

寺井委員長司会の下に本委員会を開催した。

4.1 前回議事録の承認

下記を修正し第 302 回議事録（案）を承認した。

4.3-(1)-(d) 炭素材料学科員 → 炭素材料学会員

4.3-(2) 中印からの採択率 → 中印からの投稿数

4.3-(2) 日米の採択率 → 日米の投稿数

A 分科会議事録については以下を修正する。

1 ページ 8 行目 □ → ε (2 か所)

2 ページ 2 行目 繊維 → 線維

B 分科会議事録については以下を修正する。

1 ページ 1 行目 白石壮志委員は → 白石壮志氏は

1 ページ 14 行目 遠藤有紀子 → 遠藤有希子

1 ページ 14 行目 アイシン (株) → アイオン (株)

4.2 第 117 委員会関係

(1) 委員長報告等

(a) 委員の異動

・新規入会

積水化学工業株式会社 高機能プラスチックカンパニー プレジデント付

HSP Lab. シニアフェロー

中壽賀 章 (なかすが あきら) 様

(b) 日独合同セミナーについて

- ・第 4 回は済州島にて行われる Carbon2014 の後に、向井委員がホストとなり北海道で開催。
- ・それ以降の開催については、ドイツ側の意思確認を行う。
- ・ドイツ開催時は SGL カーボンがほとんどの経費を負担しているが、日本開催時には同様な形態をとることは出来ない。参加費徴収を含め開催方法を検討する。

(c) 量子ビーム融合化利用研究について

科研費新学術領域研究に 3 回目の応募を行う。117 委員会としては一部を担う形で協力する。申請が通った場合には、新規の参画を歓迎する。

(d) 次回以降の予定について

H24 第 4 回 (304 回, BCDA) 11 月 15 日 (木) 16 日 (金)

産総研臨海副都心センター (会場担当: 児玉幹事) (15 日午後は特別講演会)

H25 年度については、4 月、7 月、9 月、11 月の 4 回を予定し、第二もしくは第三金曜を基本とする。ただし、7 月は Carbon 国際会議 (7/14-19, Rio de Janeiro) が開催されるため、第一週または第四週に開催する。11 月は特別講演会を開催する。会場は東工大、東京都市大、東大、産総研を予定している。

(2) 分科会報告

- (117-303-A-1) 多孔性炭素電極内に発生する圧力について: モンテカルロ法による解析
○清原健司, 塩山洋 (産総研・関西センター)
- (117-303-A-2) ラマン 1 次スペクトルにおける D, G バンドピーク強度比 I_D/I_G から結晶子寸法を評価する Knight と White の式に対するコメント II
○菱山幸宥¹, 吉田明² 楠木裕³
(東京都市大名誉教授¹, 東京都市大総合研究所², 東京都市大工³)
- (117-303-B-1) スピンコート法により調製した炭素超薄膜の TEM 観察
○吉澤徳子, 曾根田靖, 児玉昌也 (産総研)
- (117-303-B-2) 活性炭充填発泡アルミニウム電極のキャパシタ特性
○白石壮志¹, 山口貴史¹, 今井かおり¹, 織戸賢治², 星野孝二²,
神田栄子², 磯部毅² (群馬大院工¹, 三菱マテリアル²)
- (117-303-C-1) 膨張化炭素繊維のドラッグキャリアーとしての応用
○豊田昌宏¹, 永本康祥¹, 信岡かおる¹, 北岡賢¹, 石川雄一¹,
河野正典², 津村弘² (大分大工¹, 大分大医²)
- (117-303-C-2) 高出力型負極炭素材料のリチウム吸蔵状態について
○藤本宏之 (大阪ガス)

4.3 報告事項

(1) 炭素材料学会関係

学会関係: 川口主査 (運営委員長) より以下の報告があった。

(a) 入退会関係

8月24日が年会講演申込みの期限だった為、7月から8月の間の入会者が増え、8月22日現在の(賛助会員を除く)会員数が1000名を超えた。除名対象者に対して9月中に督促請求をし、入金が無ければ10月の運営委員会で決定後に除名予定。

(b) 2012年度中間収支および2013年度予算案

2012年度中間収支について確認し、2013年度予算案について検討中。

(c) 9月スキルアップセミナー開催状況

9月4日(火) 連合会館(旧称:総評会館)にて「1日でわかるグラフェン:応用編ーエレクトロニクス応用からエネルギー貯蔵材料まで」を実施し、46名の参加があった。

(d) 10月講習会準備状況

10月12日(金) 日本教育会館にて「1日で学ぶ炭素材料の分析方法 ー入門編ー」を行う。

(e) 1月セミナーについて

2013年1月18日(金) 連合会館にて「新元素戦略と蓄電デバイスのための炭素材料」を予定している。

(f) 年会について

2012年11月28日(水)~30日(金)に対して、口頭発表132件、ポスター発表72件の申し込みがあった。口頭発表は例年より30件程度多く、特別セッションの影響が大きいと考えられる。今後、9月末頃にプログラム(仮)を本会HPに掲載し、「炭素」11月号に確定プログラムを掲載予定。多数のご参加をお願いしたい。展示企業の申込に対し、心当たりのある方はお声掛けをお願いしたい。展示ブースは157㎡、1企業あたりのスペースは長机1から2脚分ぐらい、ポスターを掲示するパーテーションは貸出可。

(g) 夏期セミナーについて

夏季セミナーの運営に関して、本セミナーを運営する若手から今後の運営について相談があり、今後の方針について検討中。今後、本学会が運営をするようになった場合でも、若手の自主性と独立性を確保できるよう内規を作成する予定。

(h) 日独セミナーについて

117委員会が主催している本セミナーについて、117委員会で問題点、解決案等を議論していただき、それを受けて本学会の今後の協力について検討する予定。

(i) 連載講座「ー新しく炭素材料実験を始める人のためにー製造・合成編」書籍化

炭素材料学会より出版する方向で、次年度予算に書籍化のための予算を組み込んで、編集・出版作業を進める予定。

(j) 新Carbon用語辞典(仮称)について

本年中に会員に対しWebアンケートを実施する方向で検討中。

炭素誌関係：白石氏（編集委員長）より以下の報告があった。

(k) 254号は9月上旬に発行済み。内容充実。

(l) 投稿規定に関して、以下の事項に関する改定を行った。 (1)和文と英文との整合

(2)WEB公開に関して (3)転載許諾に関して

(2) Carbon 誌関係

特になし

(3) 国際会議関係

特になし

(以上)